

# 調査報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成 19年 9月 26日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 15時 45分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム おおぞら ( 広島県 )
評価調査員の氏名	氏 名 羽原 高代
	氏 名 木下 政志
事業所側対応者	職 名 運営者 ・ 管理者
	氏 名 樹山孝司 ・ 豊原 英明 ヒアリングを行った職員数 ( 2 )人

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 調査報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3 4 7 4 1 0 0 3 2 2
法人名	有限会社キヤマ
事業所名	グループホーム おおぞら
所在地	〒722-0311 広島県尾道市御調町市65番地 (電話)(0848)76-3165
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南一丁目11-31 大福ビル三吉201号
訪問調査日	平成19年9月26日

【情報提供票より】( 19年 9月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 9月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17人 常勤 14人, 非常勤 1人, 常勤換算 15.0人

### (2) 建物概要

建物構造	造り 2階建ての 1階 ~ 2階部分
------	-----------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(285,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	実費 円
または1日当たり 1,200 円				

### (4) 利用者の概要( 9月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2		7 名	
要介護3	6 名	要介護4		2 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 86.3 歳	最低	69 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	戸谷医院 ・ 日野歯科医院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域密着型ケアを当初から取り入れた施設であり、近くに総合病院・歯科医院・消防署等があることから、緊急時にも恵まれた環境にある。介護計画の内容が細かく具体的な内容となっていて、職員が全入居者の状況が解るような仕組みがあり、記録も良く整理され情報の共有化がされている。運営者及び管理者は介護に関する高い研究・研修意欲があり、職員の定着率も高く、職員が意欲を持って仕事出来るように介護知識や技術の習得にも熱心である。スタッフを大切にすることが入居者サービスの質の向上に連動している。体験入居が可能な仕組みがあり、入居者希望者は入居前にホームの雰囲気を感じ、家族・入居者とも納得した上の入居であるため違和感のない介護が

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題と今後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の自己評価及び外部評価における改善要望事項については、真摯に受け止め早急に対応がなされていた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の項目1~87までの項目に付いては、利用者のケアの方針・介護費用等について運営者・管理者・職員が検討して行われており、項目88~100までは職員のアンケートをまとめた結果を提示している。関係者全員で自己評価に取り組まれていることは非常に素晴らしい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 2ヶ月に1度運営推進会議を実施し、自己評価と外部評価についての報告や利用者の総体的なケアの方針等についても、地域包括支援センター・民生委員・家族等からの意見を聞き、ケアに反映させている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の意見や苦情について文章に残し、職員間で共通の認識を持って対応している。さまざまな面で率直な話し合いができる体制づくりがされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域住民との協力の体制あり。地域のふれあいサロンに参加したり、ボランティアを受け入れハーモニカ・カラオケ・リハビリ等入居者と一緒楽しめる取り組みがなされている。 運営者は、町内会等でホームの取り組み状況について機会を見つけて話をされている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的、生きがいを持って個々を尊重し、利用者のしたいことや役割を大事に思いやりのある理念となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が玄関及び常に職員の目に入る場所に掲示しており、カンファレンス等でも徹底がなされ、職員は理解し、共有が図られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ふれあいサロンに参加したり、ボランティアを受け入れ、地域行事に参加する等運営推進会議を通じて、ホームが閉鎖的にならない努力がなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者を中心に職員の意見を聞きながら作成されている。自己評価の' サービスの成果に関する項目'は職員のアンケートを元に作成され、自己評価への真摯な取り組みの姿勢が伺えた。前回評価の改善点についても取り組まれている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に奇数月に運営推進会議が開かれ、双方向の意見交換がなされている。すべての家族が開催日を把握され、出席し易い。意見・要望に対しては可能な限り対応できるように努力されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口相談し、具体的には地域包括支援センターと連携をとりながらサービスの質の向上が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月初めに行事案内が家族に送られている。金銭の出納についても定期的に報告されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に、家族の意見を聞いて運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、入居者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動が少なく、入所者に対して馴染みの職員でケアがなされている。新職員との交替時は十分な引継ぎがされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、積極的に外部研修に参加され、研修内容についてホーム内で共有が図られている。内部研修は管理者が常に行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に交流が図られており、質の向上に向けて前向きに取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の入居者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者の心情を汲みながら、体験入所や希望者の自宅に出向いて情報交換をしながら家族・入居者が納得して入居できる仕組みがある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員がお互いに協働し合って生活している感覚が見て取れた。一緒に歌を歌ったり、話したり聞いたりなどの自然な雰囲気があった。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活会話の中から入居者の思いを汲み取り、ケアに反映されている。また表現できない方には、昔の写真等では話のきっかけを作っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる入居者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	1ヶ月に1回作成されている。内容には具体的で細かく本人本位のものとなっている。介護計画は職員間でも充分共有され、誰でも入居者の情報が分かるような仕組みがある。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ADLに変化があったり、体調を崩されて場合には、家族・職員の意見を反映して随時見直しがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在家族・入居者から要望がないが、要望があれば対応できる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には職員が支援している。ご家族が行かれる場合には事前に家族に入居者のバイタルなど情報を書いたものを渡している。受診結果に関する情報の共有も図れている。必要な場合は往診も受けている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族と細かく相談され、主治医の意見も聞いて、職員が具体的に対応できる体制づくりがなされている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	目立たずさりげない言葉かけがなされている。個人記録は非常にきちんと整理保管がなされていた。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝起き・朝の食事・入浴・散歩等入居者の希望や思いを良く聞いて、出来る限り柔軟な対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
		食事を楽しむことのできる支援			
22	54	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者が同じテーブルを囲んで食事をし、さりげない食事支援がなされていた。食事後の片付けも協働して行われていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日1回程度入居者の希望を取り入れながら支援している。入浴の嫌いな方には、さりげなく声かけで対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人に合ってバックグラウンドを把握し、役割、楽しみごとを活かしている。お掃除の手伝い、洗濯たたみ、下膳、園芸などその人らしい支援がなされている。介護度の高い人には話好きな人の傍で話が聞けるような気遣いがなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候にも依るが2～3人で散歩がなされている。遠出は月に1回程度動物園などに出かけている。		日常的な外出支援と介護度の高い方や散歩を好まない方のために、敷地内の広い庭の活用など、気分転換が出来るような取り組みが望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	立地上、主要道路に面しているため、玄関の施錠はされていないが、内戸は家族からの要望で必要最少限の簡易な鍵を取り付けている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年1回実施されている。		各種の災害に備え、定期的に研修・訓練し、地域の協力が得られるように日ごろから地域を含めた体制作りが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
		栄養摂取や水分確保の支援			
28	77	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はバランスよく、1週間の献立表を作成して管理がなされていた。 水分摂取については1500CCを目安に、一人ひとりの状態に合わせているいな飲み物で摂取している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、入居者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は十分な広さがあり、和室も備えて入居者それぞれが快適に過ごせる空間となっている。		
		居心地よく過ごせる居室の配慮			
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の個性を活かして、趣味や家族の思い出の品々で落ちついて暮らすことの出来る空間となっていた。		

# 介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム おおぞら(ききょうユニット)

評価年月日 平成19年 9月 26日

記入年月日 平成19年 8月 15日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行なって下さい。

記入者 職 管理者 氏名 豊原 英明

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	基本理念として「人権保護・安心して家庭的な生活ができること・生き甲斐を持って生活ができること」を掲げている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念は常に目に入る場所に掲示し、共有を図っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	面会又は、外来の方には口頭で説明を行っており、理解されていると思う。		運営推進会議で再確認する。

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	買い物・散歩中に近隣の方に挨拶や話をして、いつでも立ち寄って頂ける様、声掛けを行っている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域行事に入居者と一緒に参加。 ボランティアの方々を通して地元の人々と交流している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議の中で話すことはあるが、取り組みについては完全ではない。		取組みについても具体的に話し合いを行い、実施したい。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全員が目を通し、どこが出来ていないかを把握した上で、改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度、運営推進会議を行っているが、家族参加が少ない為、十分な話し合いが出来ていない。		家族の方が参加しやすい日時の設定に努める。 不参加の方には、面会時に内容説明を行う。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	ホームで問題解決出来ないとき等に相談にのっていただいている。 (地域包括支援センター)		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会や情報提供が完全には出来ていない。		ホーム内外での研修等により、学んでいきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	防止に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

4 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書、重要事項説明書以外にも、入居前から口頭、又は書類で説明を行っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。</p>	<p>ホームの苦情受付窓口以外にも、その他の窓口があることの掲示をしている。</p>		
14	<p>家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>毎月の行事案内・家族面会の際に、暮らしぶりの説明、金銭の確認等をしている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議や面会時など、その都度聞き、対応している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>意見・提案を反映している。</p>		<p>ストレスの緩和に努めたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>シフト・勤務時間の変更にて対応している。 (受診対応等)</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮            運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>2ユニットあるが、職員の異動は無く、馴染みの職員で対応している。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み            運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>現場での指導には力を入れている。            また、認知症介護実践研修等の受講は積極的に進めている。</p>		<p>今後も研修やトレーニングの機会を増やしていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上            運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>交流を通じた向上の機会が少ない。</p>		<p>他のホームへの見学・研修を増やしていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>年3～4回親睦会を行う等、ストレス軽減について配慮している。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み            運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>個々の努力・実績・勤務状況の把握に努めている。</p>		
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係            相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>本人から聞けない時は、家族・知人から不安に思うことを聞き、把握に努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居までに見学・面接など、何度か聴く機会があり、対応している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	各専門職の方と連携し、サービス利用を考える。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	体験入居があり、ホームの雰囲気を感じてもらう。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の味付けや工夫などを教えて頂いている。 又、昔の話を聴くことにより、学ぶこともある。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に家族の思いを聞き、相談等を行い、より良い支援、又は関係作りを行っている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	行事参加や昔の写真などを持参して頂き、その中で話題をつくっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居以前から参加されていた地域行事に入居後も参加されている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士が関わりあえる時間を設け、お茶や体操を一緒に行う。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	家族によって違いはあるものの、基本的には出来ていない。		

### その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1 一人ひとりの把握

33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	共に生活しながら把握に努めている。 本人が生活しやすい様、居室内の配置を替える等の対応をしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	バックグラウンドを参考にしている。 (生活暦や環境等)		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日課として行っている手伝い又は仕事に対する取り組み方等にも注意し、現状把握に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人が望んでいること、又、家族の要望を聞き、計画を立てている。		必要な関係者との話し合い不足もあり、今後は意見・アイデアを反映していきたい。
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月、結果をもとに見直しを行い、入居者の状況に合った計画をその都度立てている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録の他に、別のノートに気づきや工夫等を記載し、申し送りや報告している。 又、いつでも見れる所に置いている。		

## 3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	/		
----	---	---	--	--

## 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域行事は民生委員の方が案内をして下さる。 又、ホーム内行事には地域の方にボランティアで参加して頂いている。		
----	--	---	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。			
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議の時に話し合いが出来ている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	ホームの近くに協力医院があり、受診、又は必要な場合は往診していただいている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	随時ではないが、状況により相談している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	定期的に非常勤の看護師が入居者の健康チェックをしている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院された際には2～3日に1回、お見舞いに行き、本人の状況把握に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>家族の方に状態報告をしている。            又、主治医とも相談や話し合いが出来ている。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>ホームに指針があり、対応している。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>情報提供を行い、できるだけ不安感を与えない様に心掛けている。</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>訪問時は必ず、声掛けを行っている。            記録等の管理には注意している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>同じ事を繰り返されても、本人の理解が得られる様な説明を行い、納得される援助を行っている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>対応・心構えはあるが、時間帯によっては希望にそえないことがある。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	季節に合った衣服の着用に配慮している。 美容院利用の希望者には支援している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	テーブル拭き・食器洗い・食器拭きなど、分担して職員と一緒にやっている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	好みの飲み物を購入し、提供している。 パン(訪問販売)・タバコの購入等、楽しみがある。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンを理解し、声掛け、又は介助をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	好みの時間に合わせている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人が安心して休息・睡眠できるような環境づくり、支援をしている。 (ソファ・和室・居室等、個々がリラックスできる場所で休息・睡眠をされている。)		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	花の手入れや個々に役割を持っている。 又、趣味を楽しんで頂いている。		全ての入居者に、楽しみ・趣味を持って頂きたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の方と相談し、個々に応じて支援している。 自分で買い物をする方は見守りを行っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物に行く時には声を掛け合う。 ホーム周辺の散歩も数人で外出している。		一部の入居者に偏らないようにしたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	家族と外出される方もおられるが、行事以外での遠出は、あまり出来ていない。		要望のある場所へ行ける様、実施していきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人が手紙を書けない場合は、内容を相談した上で代筆する。 電話対応についても同様。		電話対応については、出来ていない方もおられるので今後実施に努める。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問時は居室にてお茶を飲みながら、お話をされる。 記念写真を撮影することもある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	自分の意思で動けるように支援している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	必要最低限の施錠のみ行っている。 その他は見守りにて対応している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中・夜間共に、定期的に訪室し、安全確認を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者個々の管理能力に応じて、管理して頂いているが、ライター等は一括にお預かりしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	専門の方により指導を受けている。 転等防止についても家具等の配置を考慮している。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	急変時、緊急マニュアルにて対応。 勉強会も行っている。		応急手当の勉強会回数を増やして行きたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年1回、避難訓練を実施している。</p>		<p>地域の方に協力が得られる対応を考えていきたい。</p>
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>	<p>面会時等、その都度、状況に応じて説明している。</p>		
<p>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</p>				
73	<p>体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>申し送りにて情報共有している。 変化があれば特に注意するように努めている。</p>		
74	<p>服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の理解もしているが、服薬後の観察も行っている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>	<p>個々の状態に合わせ、水分補給や腹部マッサージ・体操を行っている。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアを行っている。 磨き残しがあれば、支援する。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事摂取量チェックを行っている。 水分は、食事・おやつ時以外にも時間を決めて補給している。(9:00、14:00)</p>		
78	<p>感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。(インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)</p>	<p>感染者が出た場合、マニュアルに沿って対応している。</p>		
79	<p>食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>手洗いの徹底。 鮮度の確認、調理用具の衛生管理に努めている。</p>		
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>二階エレベータ前にも、観葉植物を置き、親しみやすい空間作りを行っている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節の花を生けている。 季節の応じて飾りつけを行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室で休まれたり、ソファ、和室を自由にご使用頂いている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	古い写真など、持ってきて頂いたり、ホーム内で撮影した写真などを飾ったりしている。 又、洗濯物を干せるよう、工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	ユニットに温度計が3ヶ所あり、室温に注意している。 又、換気にも努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内は段差が無く、バリアフリーになっている。 トイレ。廊下等には手摺りを取り付けている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者に役割・日課を持って頂くことで混乱の防止に繋げている。(職員はさりげない支援を行う)		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダにジャガイモを植えたり、植木鉢を置いたりして、それを入居者が世話をされている。		

## サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<p>ほぼ全ての利用者の  <del>利用者の2/3くらいが</del>          利用者の1/3くらいが          ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<p>毎日ある          数日に1回程度ある  <del>たまにある</del>          ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<p>ほぼ全ての利用者が  <del>利用者の2/3くらいが</del>          利用者の1/3くらいが          ほとんど掴んでいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	<p>ほぼ全ての利用者が  <del>利用者の2/3くらいが</del>          利用者の1/3くらいが          ほとんど掴んでいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<p>ほぼ全ての利用者の          利用者の2/3くらいが  <del>利用者の1/3くらいが</del>          殆ど掴んでいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<p>ほぼ全ての利用者が  <del>利用者の2/3くらいが</del>          利用者の1/3くらいが          ほとんど掴んでいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<p>ほぼ全ての利用者が  <del>利用者の2/3くらいが</del>          利用者の1/3くらいが          ほとんど掴んでいない</p>

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、活き活きと働いている。	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらい 家族等の1/3くらい ほとんどできていない

は、外部評価との共通項目

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(特に力を入れている点)

- ・ ADLが低下しない様、残存機能を活かした、個別ケアの実施に取り組んでいる。
- ・ 状態に変化が見られた際は即時対応し、ケアの工夫にも取り組んでいる。

(アピールしたい点)

- ・ 個々の入居者の時間を大切にしている。  
(居室にて好みの音楽を鑑賞する・和室に横になる等)

# 介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム おおぞら(さくらユニット)

評価年月日 平成19年 9月 26日

記入年月日 平成19年 8月 15日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行なって下さい。

記入者 職 管理者 氏名 豊原 英明

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	基本理念として「人権保護・安心して家庭的な生活ができること・生き甲斐を持って生活ができること」を掲げている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念は常に目に入る場所に掲示し、共有を図っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	面会又は、外来の方には口頭で説明を行っており、理解されていると思う。		運営推進会議で再確認する。

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	買い物・散歩中に挨拶や会話があり、日常的に付き合いがある。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域行事に入居者と一緒に参加。 ボランティアの方々を通して地元の人々と交流している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議の中で話すことはあるが、取り組みについては完全ではない。		取り組みについても具体的に話し合いを行い、実施したい。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全員が目を通し、どこが出来ていないかを把握した上で、改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度、運営推進会議を開き、家族等からの意見を取り入れることでサービスの向上に努めている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	ホームで問題解決出来ないとき等に相談にのっていただいている。 (地域包括支援センター)		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会や情報提供が完全には出来ていない。		ホーム内外での研修等により、学んでいきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	防止に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

4 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書、重要事項説明書以外にも、入居前から口頭、又は書類で説明を行っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。</p>	<p>ホームの苦情受付窓口以外にも、その他の窓口があることの掲示をしている。</p>		
14	<p>家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>毎月の行事案内・家族面会の際に、暮らしぶりの説明、金銭の確認等をしている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議や面会時など、その都度聞き、対応している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>意見・提案を反映している。</p>		<p>ストレスの緩和に努めたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>シフト・勤務時間の変更にて対応している。 (受診対応等)</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	2ユニットあるが、職員の異動は無く、馴染みの職員で対応している。		
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	現場での指導には力を入れている。 また、認知症介護実践研修等の受講は積極的に進めている。		今後も研修やトレーニングの機会を増やしていきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	交流を通じた向上の機会が少ない。		他のホームへの見学・研修を増やしていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	年3～4回親睦会を行う等、ストレス軽減について配慮している。		ストレス緩和の為、個人面談等により原因を探り、解決できる様、取り組みたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	個々の努力・実績・勤務状況の把握に努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	本人から聞けない時は、家族・知人から不安に思うことを聞き、把握に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居までに見学・面接など、何度か聴く機会があり、対応している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	各専門職の方と連携し、サービス利用を考える。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	体験入居があり、ホームの雰囲気を感じてもらう。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の味付けや工夫などを教えて頂いている。 又、昔の話を聴くことにより、学ぶこともある。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に家族の思いを聞き、相談等を行い、より良い支援、又は関係作りを行っている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	行事参加や昔の写真などを持参して頂き、その中で話題をつくっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	日課となっている病院受診や、知人の面会等の支援に努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士が関わりあえる時間を設け、お茶や体操を一緒に行う。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	家族によって違いはあるものの、基本的には出来ていない。		

### その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1 一人ひとりの把握

33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話等から把握できる様に努めている。又、困難な方は家族からの情報提供を参考にしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	バックグラウンドを参考にしている。 (生活暦や環境等)		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎朝のバイタルチェックをし、その時の顔色や状態を確認し、対応している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人が望んでいること、又、家族の要望を聞き、計画を立てている。		必要な関係者との話し合い不足もあり、今後は意見・アイデアを反映していきたい。
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月、結果をもとに見直しを行い、入居者の状況に合った計画をその都度立てている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録の他に、別のノートに気づきや工夫等を記載し、申し送りや報告している。 又、いつでも見れる所に置いている。		

## 3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	/		
----	---	---	--	--

## 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域行事は民生委員の方が案内をして下さる。 又、ホーム内行事には地域の方にボランティアで参加して頂いている。		
----	--	---	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。			
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議の時に話し合いが出来ている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	ホームの近くに協力医院があり、受診、又は必要な場合は往診していただいている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	随時ではないが、状況により相談している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	定期的に非常勤の看護師が入居者の健康チェックをしている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院された際には2～3日に1回、お見舞いに行き、本人の状況把握に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>家族の方に状態報告をしている。            又、主治医とも相談や話し合いが出来ている。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>ホームに指針があり、対応している。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>情報提供を行い、できるだけ不安感を与えない様に心掛けている。</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>訪問時は必ず、声掛けを行っている。            記録等の管理には注意している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>いくつかの選択肢が出来るような問いかけを行い、本人の意思の確認をしている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>対応・心構えはあるが、時間帯によっては希望にそえないことがある。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	季節に合った衣服の着用に配慮している。 美容院利用の希望者には支援している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	テーブル拭き・食器洗い・食器拭きなど、分担して職員と一緒にやっている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	買い物を希望される方には日を決めて、また物品を買って来て欲しいと希望される方に対してはその都度対応している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンを理解し、声掛け、又は介助をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	好みの時間に合わせている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ソファー、又は和室にて横になられたり、居室に戻られ休まれる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	畑・花の手入れや個々に役割を持っている。 又、趣味を楽しんで頂いている。		全ての入居者に、趣味を持って楽しんで頂きたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。	家族の方と相談し、個々に応じて支援している。 自分で買い物をする方は見守りを行っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに, 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援している。	買い物に行く時には声を掛け合う。 ホーム周辺の散歩も数人で外出している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに, 個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	動物園など家族の方と一緒にいくことがある。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人が手紙を書けない場合は, 内容を相談した上で代筆する。 電話対応についても同様。		電話対応については, 出来ていない方もおられるので今後実施に努める
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問時は居室にてお茶を飲みながら, お話をされる。 記念写真を撮影することもある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	自分の意思で動けるように支援している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	必要最低限の施錠のみ行っている。 その他は見守りにて対応している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中・夜間共に、定期的に訪室し、安全確認を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者個々の管理能力に応じて、管理して頂いているが、ライター等は一括にお預かりしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	専門の方により指導を受けている。 転等防止についても家具等の配置を考慮している。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	急変時、緊急マニュアルにて対応。 勉強会も行っている。		応急手当の勉強会回数を増やして行きたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年1回、避難訓練を実施している。</p>		<p>地域の方に協力が得られる対応を考えていきたい。</p>
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>	<p>面会時等、その都度、状況に応じて説明している。</p>		
<p>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</p>				
73	<p>体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>申し送りにて情報共有している。 変化があれば特に注意するように努めている。</p>		
74	<p>服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の理解もしているが、服薬後の観察も行っている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>	<p>個々の状態に合わせ、水分補給や腹部マッサージ・体操を行っている。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアを行っている。 磨き残しがあれば、支援する。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事摂取量チェックを行っている。 水分は、食事・おやつ時以外にも時間を決めて補給している。</p>		
78	<p>感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)</p>	<p>感染者が出た場合、マニュアルに沿って対応している。</p>		
79	<p>食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>手洗いの徹底。 鮮度の確認、調理用具の衛生管理に努めている。</p>		
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>観葉植物や、花の鉢植え等を置いている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節の花を生けている。 季節の応じて飾りつけを行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビ前のソファや和室にて過ごすことができ、会話もできる。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	古い写真など、持ってきて頂いたり、ホーム内で撮影した写真などを飾ったりしている。 又、洗濯物を干せるよう、工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	ユニットに温度計が3ヶ所あり、室温に注意している。 又、換気にも努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内は段差が無く、バリアフリーになっている。 トイレ。廊下等には手摺りを取り付けている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者に役割・日課を持って頂くことで混乱の防止に繋げている。(職員は、さりげない支援を行う。)		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭には花壇・畑を作り、ウッドデッキから見えるようにしている。		

## サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<p>ほぼ全ての利用者の  <del>利用者の2/3くらいが</del>          利用者の1/3くらいが          ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<p>毎日ある          数日に1回程度ある  <del>たまにある</del>          ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<p>ほぼ全ての利用者が  <del>利用者の2/3くらいが</del>          利用者の1/3くらいが          ほとんど掴んでいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	<p>ほぼ全ての利用者が  <del>利用者の2/3くらいが</del>          利用者の1/3くらいが          ほとんど掴んでいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<p>ほぼ全ての利用者の          利用者の2/3くらいが  <del>利用者の1/3くらいが</del>          殆ど掴んでいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<p>ほぼ全ての利用者が  <del>利用者の2/3くらいが</del>          利用者の1/3くらいが          ほとんど掴んでいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<p>ほぼ全ての利用者が  <del>利用者の2/3くらいが</del>          利用者の1/3くらいが          ほとんど掴んでいない</p>

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、活き活きと働いている。	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらい 家族等の1/3くらい ほとんどできていない

は、外部評価との共通項目

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(特に力を入れている点)

- ・ 入居者との良い関係を築く為、個々の生活リズムに配慮し、一緒に過ごせる時間を多く取れる様、取り組んでいる。
- ・ スタッフのストレス緩和の為、個人面談等により、原因を探り、解決できる様、取り組んでいる。

(アピールしたい点)

- ・ 明るく、和やかで家庭的な雰囲気。